

第13回基本政策部会 議事要旨

- 1 日時
令和2年11月4日(水) 10:00~12:15
- 2 場所
中央合同庁舎第4号館4階 共用第2特別会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、栗原委員、
柵山委員、篠原委員、白坂委員、角南委員、常田委員、林委員
 - (2) 事務局
宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官
 - (3) 関係省庁等
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課
宇宙利用推進室長 国分 政秀
経済産業省製造産業局宇宙産業室長 是永 基樹
環境省地球環境局総務課
脱炭素化イノベーション研究調査室長 中島 恵理
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
宇宙輸送技術部門事業推進部長 佐藤 寿晃
宇宙輸送技術部門H3プロジェクトマネージャ 岡田 匡史
 - (4) オブザーバ
山崎宇宙政策委員

4 議事要旨(○:意見等)

(1) 宇宙基本計画工程表の改訂について

内閣府、文部科学省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、経済産業省、環境省から資料1、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4、資料3、資料4、資料5-1に基づき、関連施策の説明が行われた後、内閣府から参考資料1、参考資料2に基づき、宇宙基本計画工程表の改訂について説明が行われた。
質疑応答において、以下の意見があった。

○アルテミス計画やISSを含め低軌道の今後の利用について、民間の投資を引き出していくためには、国の投資とともに将来的な民間からの投資を引き出すための予見性を高めていくことが重要。

○アルテミス計画は将来的に安全保障上も重要になる。今後、宇宙活動領域の拡大に伴うリスクにどう対処するか観点も含めた検討も重要。

○宇宙システムのサイバーセキュリティ対策については、国際的なルールづくりが必要であり、日本としても主体的に取り組んでいく必要。

○デジタル化の進展に伴い、衛星だけでなく地上局も含めてデータ管理に関わるプレイヤーの広がり留意して、今後の対策を考えていく必要がある。また、他産業との連携や宇宙産業のサプライチェーン全体のセキュリティ対策を検討することも重要。

○商用衛星のサイバーセキュリティ対策は、安全保障上も極めて重要であるという視点も必要。

○環境省の取組を好事例として、政府全体でもデブリ対策の方針を検討することが必要。

○衛星のデジタル化は世界の動きが速い。例えば、ETS9については、今の計画のままですと、世界と戦えるかどうか。計画を遅らせてでも、世界に勝てるものにすべき。

また、衛星の設計まで含めたデジタル化を進めていく必要があり、関係省庁の連携が必要。

○衛星データの利用拡大に向けては、実証と実装の違いを意識する必要。実装につながっていないケースが多いので、ユーザーにとって使われるための工夫が必要。

○衛星データが社会にどのように役立っていくか、示していく必要。例えば、SIPの取組についても、研究開発段階から、誰がどのように実装するのかもしっかり検討していく必要。

○SSA・STM、デブリ対策については、これから省庁横断、官民一体で、重複がないよう責任主体を明確にしながら、総合的に取り組む必要。

○デブリ対策を含めた宇宙交通管理については、メガコンステレーション時代を踏まえつつ、日本企業の競争力への影響も考慮しつつ、ルール形成を考える必要。

○リスクマネー供給については、民間ファンドの動きも出てきているが、引き続き政府系ファンドの支援も重要であり、官民一体で取り組んでいく必要。

○宇宙産業が経済成長・イノベーションへの貢献ができるかどうか、波及効果も含めてインパクトを世の中にしっかり見せていく必要がある。

○若手人材や他分野の人材が宇宙に参入しやすくするための施策も必要。これは産業界だけでなく大学レベルでも同様。

○衛星開発・実証プラットフォームは、5GやBeyond5Gとの連携や宇宙科学・地球観測との連携などの横通しも意識をして進めていくべき。